

関連プログラム

講演会「栖鳳の芸術について」

日時：2023年10月14日(土) 14:00～15:30
講師：平野重光(美術史家、元京都市美術館学芸課長)

講演会「竹内栖鳳、京都画壇にあらわる」

日時：2023年11月5日(日) 14:00～15:30
講師：森光彦(京都市京セラ美術館学芸員)

クロストーク「わたしたちの好きな栖鳳」

日時：2023年11月18日(土) 13:00～14:30
登壇：定家亜由子(日本画家)、福田季生(日本画家)



定家亜由子

福田季生

会場：京都市京セラ美術館地下1階講演室

料金：無料(予約不要、先着順、要本展観覧券)

定員：各回60名

*その他ギャラリートークなどを実施します。詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

kyotocity-kyocera.museum

音声ガイド 料金：600円(税込)



佐賀龍彦



石井琢磨

今注目のボーカル・グループ「LE VELVETS」の佐賀龍彦さんと、クラシック系YouTuberとしても話題のピアニストの石井琢磨さんがナビゲーターとして本展をご案内します。石井琢磨さんのピアノによるF.クライスラー「愛の悲しみ」が本展テーマ曲に。

観覧料(税込)

一般 1,800円(1,600円) / 大学・高校生 1,300円(1,100円) / 中学生以下：無料

* ()内は前売、20名以上の団体料金 * 京都市内に在住・通学の高校生は無料

* 障害者手帳等をご提示の方は本人及び介護者1名無料(学生証、障害者手帳等確認できるものをご持参ください)

美術館公式オンラインチケット、チケットぴあ(Pコード：686-583)、ローソンチケット(Lコード：54609)、セブンチケット(セブンコード：102-038)ほか主要プレイガイドなどでチケット発売中!

お問い合わせ

【TEL. 075-771-4334】

本展と当館公式オンラインチケットe-tixの詳細はこちら→



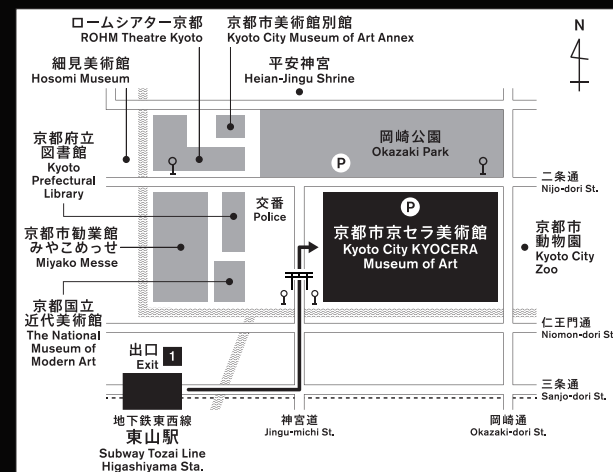
交通案内

電車：地下鉄東西線「東山駅」から徒歩約8分、京阪電車「三条駅」から徒歩約16分

市バス：「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車すぐ、
「岡崎公園 ロームシアター京都・みやこめっせ前」下車すぐ



《夏鹿》(右隻) 1936年 MOA美術館蔵 通期展示 Summer Deer (right screen), 1936, Collection of MOA Museum of Art / Full Period Exhibit



Admission

Adult ¥1,800 (Advance / Group ¥1,600)
University / High school student ¥1,300 (Advance / Group ¥1,100)
Junior high and younger students are admitted free of charge.

Inquiries

TEL. 075-771-4334
Please visit the Museum website for ticket purchase.

Directions

By subway / Keihan Railway: 8 minutes walk from Higashiyama Station of Kyoto city subway Tozai Line. 16 minutes walk from Sanjo Station of Keihan Railway.
By bus: 1 minute walk from Okazaki Koen / Bijutsukan, Heian Jingu-mae. 1 minute walk from Okazaki Koen / ROHM Theatre Kyoto, Miyakomesse-mae.

京都市京セラ美術館

Kyoto City KYOCERA Museum of Art

破壊と創生のエネルギー

竹内栖鳳

京都市美術館開館90周年記念展

2023 10.7(土) - 12.3(日)

【前期】10月7日(土)～11月5日(日) 【後期】11月7日(火)～12月3日(日)
※会期中展示替えあり

京都市京セラ美術館

本館 南回廊1階

開館時間：10:00～18:00 (入場は閉館30分前まで)

休館日：月曜日(祝日の場合は開館)

主催：京都市、京都新聞、ライブエグザム、BSフジ、日本経済新聞社

協力：株式会社サンエムカラー

October 7 (Sat.) – December 3 (Sun.), 2023

Part 1 October 7 (Sat.) – November 5 (Sun.)

Part 2 November 7 (Tue.) – December 3 (Sun.)

Kyoto City KYOCERA Museum of Art

Main Building South Wing 1F

Opening Hours: 10:00-18:00 (Last admission: 17:30)

Museum closed on Mondays, except public holidays.

Organizers: City of Kyoto, The Kyoto Shimbun, LIVE EXSAM Inc., BS FUJI INC., Nikkei Inc.

Support: SunM Color Co.,Ltd.

《虎・獅子図》(左隻/部分) 1901年 三重県立美術館蔵 後期展示
Tiger and Lion (left screen, detail), 1901
Collection of Mie Prefectural Art Museum / Part 2 Exhibit

Kyoto City Museum of Art
90th Anniversary Exhibition

Takeuchi Seiho: A Destructive and Creative Force

竹内栖鳳は、近代京都の日本画界に最も大きな影響を与えた画家です。画壇革新を目指した明治期には、旧習を脱却した新たな日本画表現を模索し、西洋にも渡りました。技術が円熟に達した大正・昭和期には、画壇の重鎮として、第一線で活躍しながら多くの弟子を育成したことも知られています。「写生」を重要視しながら、抜群の筆力で生き生きとした作品を生み出し、圧倒的な求心力で画壇をリードして、近代京都日本画の礎を作りました。現在では巨匠として多くに知られる存在ですが、そこへ至るためには、古い常識を破壊し、新たな地平を創生するエネルギーが不可欠だったのです。

本展では、当館所蔵の重要文化財《絵になる最初》をはじめ、若手時代から円熟期まで、栖鳳の代表作を集めて展示し、一堂にその画業を振り返ります。栖鳳の挑戦をより明らかにするため、本画に加え、制作にまつわる写生や下絵、古画の模写など、様々な資料もあわせてご覧いただけます。

作品約130点で栖鳳の奮闘を余すところなく振り返る、大規模回顧展です。



《観花》1897年 海の見える杜美術館蔵 後期展示
踊る骸骨。過激な画題で展覧会の出品拒否にあった。
Cherry Blossom Viewing, 1897
Collection of Umi-Mori Art Museum / Part 2 Exhibit

Takeuchi Seiho was the most influential painter in modern Japanese painting. During the Meiji period, Seiho aimed for the innovation in the world of painting and traveled to the West, seeking for new expressions of Japanese painting which transcends old traditions. In the Taisho and Showa periods, when his skills have reached maturity, Seiho was known to train his pupils while playing an active part in the frontlines of art as an influential figure. While emphasizing on the importance of "sketching," Seiho produced vivid works by his outstanding brushworks and created the foundation of modern Japanese painting in Kyoto by his overwhelming force of leadership. Nowadays, Seiho is widely known as a masterly painter, however, in his road to success, vast amounts of energy were needed in order to create a new horizon by destroying old norms.

In this exhibition, starting with our collection of *Posing for the First Time*, Seiho's representative works from his early years to his late stages will be recollected. To shed light into the challenges Seiho had faced, his sketches, preparatory drawings, reproductions of old paintings and various references will be on display. This large-scale, retrospective exhibition will fully look back at roughly 130 works of Seiho and his strenuous efforts.

◆第1章 栖鳳登場 京都画壇の麒麟児

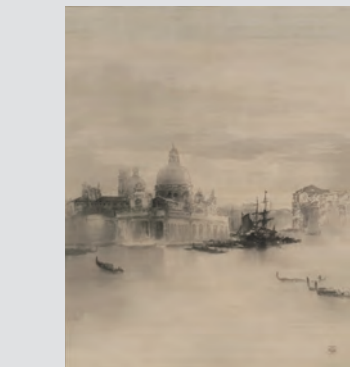
幕末京都の料理屋に生まれ、絵かきの道へ。若いころより才を発揮し、画壇にて鮮やかなデビューを果たす。



《百魅一睡》1895年 大阪歴史博物館蔵 前期展示
目を閉じる洋犬は何を思っているのか。異色の初期作。
Sleeping Dog with Puppies Amidst a Flock of Sparrows Chirping, 1895
Collection of Osaka Museum of History / Part 1 Exhibit

◆第2章 栖鳳、世界へ まだ見ぬ美術を求めて

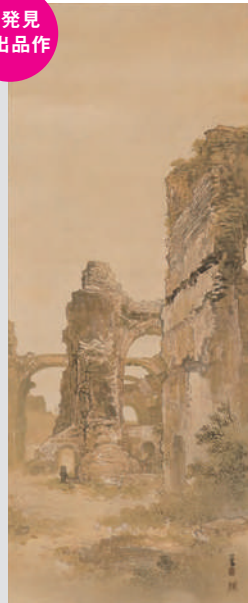
運命の転機。1900(明治33)年、ヨーロッパへの渡航。西洋文化を学び、作品は新たなステージへ。



《ベニスの上》1904年 高島屋史料館蔵 前期展示
水墨画の手法で描く、世界の風景。水の都の静かな夜。
Moon Over Venice, 1904
Collection of Takashimaya Archives / Part 1 Exhibit

《大獅子図》1902年頃 藤田美術館蔵 11/14~12/3のみ展示
アントワープの動物園でライオンの実物に熱中。
大迫力の獅子が皆を驚かせた。
Great Lion, c.1902
Collection of Fujita Museum / Nov. 14-Dec. 3 only Exhibit

新発見
初出品作



《羅馬遺跡図》1903年 通期展示
ローマの遺跡を描いたとされる貴重な作品。
Remains of Rome, 1903
Full Period Exhibit

竹内栖鳳 (たけうち・せいほう)
Takeuchi Seiho
1864-1942



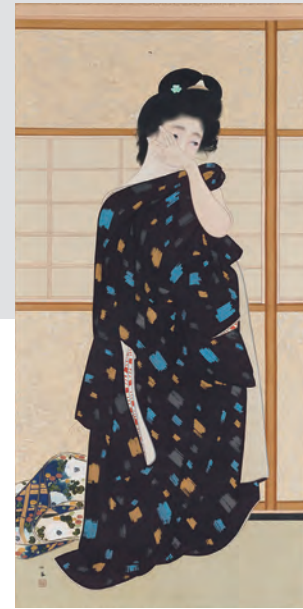
「万物に生命を与える画家」 不世出の才能、竹内栖鳳の軌跡をたどる大回顧展



《アタタ立に》1909年 高島屋史料館蔵 前期展示
舞妓のしなやかな動きを表現し、「京都的」と評された。装飾と写実を高度に調和させた一作。
Maiko Dancing "Yamanba", 1909
Collection of Takashimaya Archives / Part 1 Exhibit

◆第3章 日本画は一度破壊すべし 新しい時代へ

文部省美術展覧会が始まり、京都画壇の代表として出品を重ねた時代。将来の美術はどうあるべきか。模索のなか、日本画の破壊と創生へ舵を切る。



重要文化財
《絵になる最初》1913年 京都市美術館蔵 後期展示
日本画に珍しい、モデルを使った意欲作。
ヌードになる前の恥じらう女性の一瞬をとらえた。
Posing for the First Time, 1913
Important Cultural Property
Collection of Kyoto City Museum of Art / Part 2 Exhibit

◆第4章 躍動する写生

対象を徹底して見つけ、うつす「写生」。決まった型を脱却し、新鮮で生き生きとした筆づかいは、栖鳳の代名詞となった。



《蹴合》1926年 通期展示
暴れまわる闘鶏。羽の音が聞こえそうな迫力の写生表現。
Cock Fight, 1926
Full Period Exhibit

◆第5章 栖鳳、旅に出る 心の風景を探して

旅が大好きだった栖鳳。中国、潮来、湯河原など、心に刻んだ光景を絵に。



《南清風色》1926年頃 京都国立近代美術館蔵 前期展示
憧れの中国を描く。街のざわつきが生き生きと。
Landscape of South China, c.1926
Collection of National Museum of Modern Art, Kyoto
Part 1 Exhibit



《潮沙去来》1930年 MOA美術館蔵 後期展示
目が覚めるような青。心洗われるような波の白。
Recurring Tides at the Seashore, 1930
Collection of MOA Museum of Art
Part 2 Exhibit



《秋興》1927年 京都国立近代美術館蔵 後期展示
柔らかく、ふわふわした羽毛。ここまでできるか質感表現!
Pleasures of Autumn, 1927
Collection of National Museum of Modern Art, Kyoto
Part 2 Exhibit

◆第6章 生き物たちの賛歌

卓越した写生から、動物を描いてはにおいまで表わすと評された栖鳳。身近な動物こそ、彼の十八番だった。



《清閑》1935年頃 京都市美術館蔵 通期展示
見ているものを笑顔にする、穏やかな寝顔。ちらりと見える肉球もかわいい。
Serenity, c.1935
Collection of Kyoto City Museum of Art
Full Period Exhibit



《平和》1939年 前期展示
Peace, 1939
Part 1 Exhibit